

学校だより

第 52 号

豊橋市立豊城中学校

〒440-0801

豊橋市今橋町2番地の1

TEL 0532-54-1275

令和8年3月4日発行

E-mail hojo@toyohashi.ed.jp



自らを客観視し、 最適な学びを自己決定できる生徒の育成

自律人として、たくましくしなやかに

豊城中学校校長 前田 近子

本校では、「自律人の育成」を軸にして、日々の教育活動に取り組んでいます。自律とは、自ら考え、判断し、行動し、その結果に責任をもつ力です。また、自分の気持ちと向き合いながら、周囲の人と折り合いをつけ、よりよい方向を選び取っていくことです。

子どもたちは、心が大きく揺れながら自分をつくっていく、中学生のこの時期、小さな選択や経験を積み重ねながら、成長をしています。

私たち教職員は、時にそっと背中を押し、子どもたちに寄り添いながら成長を支えてきました。これからも、失敗を恐れず

思い出し

前期生徒会長 中岡 仁

を、過去のものとして終わらせてしまうこと、一人になることを恐れていました。

心のどこかで、どこまでも続いていくと思っていた三年間も、もう残りわずか。ゆっくりと、しかし着実に流れる季節の中で、経つ日の早さを感じます。思えばこの三年間、私は本当に仲間にも恵まれました。一年生で未知の環境に不安だった時、同じ背丈で支え合い、2年生では少しずつ慣れてきた環境の中で刺激を与えて成長させてくれました。そして3年生、仲間はたくさん思い出さずにはいられなかったとさえ感じます。だからこそ、このかけがえのない思い出

しかし、私たちの経験、思い出は懐かしむために重ねてきた訳ではなく、一人一人が自らの夢へと自力で進んでいくために積み重ねてきたものです。思い出は浸るためのものではなく、時間の流れとともに変化する未知の状況へ立ち向かっていくための勇気に変えていかなければいけません。別れは悲しいけれど確実に、一歩ずつ未来へ進んでいきたいです。三年間本当にありがとうございました。

挑戦できる環境、努力の過程が認められる風土を大切にしながら、生徒一人一人が自分の可能性を信じ、次の一歩を踏み出せる学校でありたいと思います。そして、答えを与えるのではなく、子どもたちが自分なりの答えにたどり着くまで、励まし続ける存在でありたいと思います。一人一人の歩みの速さや形を大切にしながら、子どもたちが安心して挑戦し、前に進む学校づくりを進めていきます。子どもたちが、それぞれの進む道で、たくましくしなやかに、そして自分らしく歩んでいくことを願っています。

自らを客観視し、

最適な学びを自己決定できる

生徒の育成

本校では令和五年度から、「自らを客観視し、最適な学びを自己決定できる生徒の育成」をテーマに三つの柱を立ててを講じ、研究を行ってきました。ただの「一つ目は、生徒が成長を実感できる単元（成長単元）。二つ目は、自らを客観的に捉えるための非認知能力を意識した振り返り。そして三つ目は、コミュニケーション力向上や学級の雰囲気づくりを目的としたコミュニケーションタイム（コミケ）の実施です。」

今年度は、三年間の研究の集大成として、十月に研究発表会を行いました。市内外の先生がたに、本校の生徒の学びの様子を参観いただきました。参加者からは、「子どもたちが真剣に考えて、人の話を聞き、意見を更新しながら、話し合いを進めていく姿がよかった」「授業の最後に感情曲線を描き、内容を思い出しながら振り返ることで、自分の学びを客観的に振り返る

ことができている」「コミケでは、生徒が生き生きとした表情で、ワード当てクイズに取り組む様子が見られた。「えー」や「すごい」など、気軽につぶやきができる素地がすばらしいと感じた」などの感想をいただきました。また、二期に実施した生徒自身の学習アンケートには「ほかの人の意見を聞きながら自分の意見を見直すことができた」「授業中の感情を意識することで、より理解することができるようになった」「コミケのおかげでクラスは明るい

雰囲気、自分の意見に対して『いいね』『確かに』と言ってくれるので発言がしやすい」とあり生徒自身も成長を実感している様子が伝わってきました。今後も、研究の成果と課題を振り返り、生徒の更なる成長を願い、授業や行事を通して、自己決定や関わり合いを大切に、教育活動を行ってまいります。

非認知能力を意識した

振り返りについで

豊城中学校では、生徒が自らの学びを客観的に見つめ、自己理解につながるようするために、非認知能力を意識した振り返りに取り組んでいます。非認知能力とは、認知能力（学力やIQなど）ではない、テストなどで客観的に点数化することができない能力のことです。さまざまな非認知能力の中から、学校生活を過ごすうえで、意識すべき四つの非認知能力を「豊城4マインド」として定めています。授業や行事の中で、自分が意識すべき非認知能力を自己決定し、どのように活動できたかを振り返ったり、時間経過で変

化する感情を「感情曲線」で表現し、活動を振り返ったりする二つの取り組みを行っています。生徒たちからは「非認知能力を意識することで自分を客観的に見て次に生かすことができたと」「感情を振り返ると授業の内容も一緒に思い出せていい」などの意見があがりました。来年度も引き続き実践を続け、よりよい振り返りの方法を模索していきます。



一人一人を照らす

後期生徒会長 田中丸 奈穂

学校をよくしたい。そんな思いをもって集まった仲間と、後期の生徒会が始まりました。前期の先輩方の思いを受け継ぎつつ、それぞれの公約達成のために、新メンバーで力を合わせて頑張りました。豊城ポロシヤツに関するアンケートや挨拶運動では、執行部だけでなく、多くの生徒の皆さんに協力してもらい、思いを形にすることができました。また、生徒総会に向けて、学校での日々の暮らしを見つめ、そこからよりよい学校生活となるよう、提案者と積極的に意見を交わしました。今後も、スローガンの「光輝燦然」のように、生徒一人一人を照らす学校を目指し、執行部一同頑張ります。

安心・安全な学校づくり

『グリーンルーム』

生徒たちの多様な学びに対応するため、また、安心できる居場所として、北館1階に、校内教育支援センター『グリーンルーム』を設置しています。生徒たちは毎時間、自分自身で取り組む内容を決めて生活しています。グリーンルームのよさを利用して生徒に聞くと、「自分のペースで活動できる」「落ち着いて過ごせ

る」「いろいろな先生たちと交流できる」「自分と向き合うことができる」といった答えが返ってきました。今後も、多様なニーズに対応できるように、一人一人に寄り添った温かい運営を心がけていきます。利用方法等については、いつでもご相談ください。



生徒がグリーンルームで描いた絵画作品

令和7年度 学校評価について

〈ねらい〉





生徒がよりよい教育活動を受けられることを目指し、「学校をよりよくする」ために、保護者、地域のかたの協力により学校評価アンケートを行っています。

〈方法〉

- ①生徒・教職員を対象に年2回、保護者には年1回、同じ項目のアンケートを実施
- ②保護者には年2回、記述式アンケートを実施
- ③「明日の豊城を創る会」による学校関係者評価

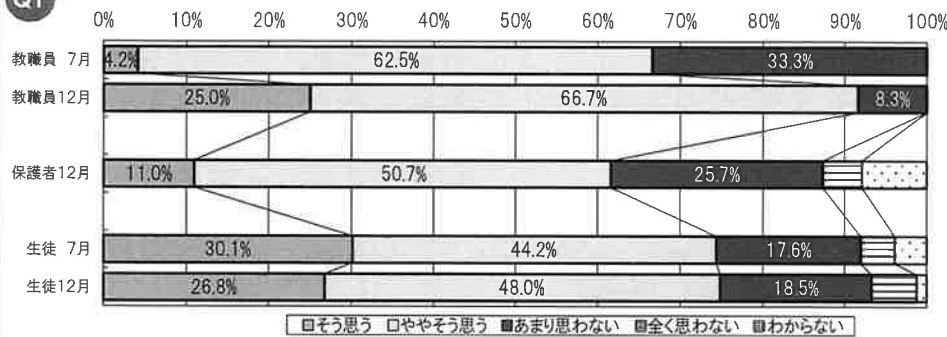
※質問は、生徒用の文言になっています。

豊城4マインド

 自制心 <small>じせいしん</small>	感情をコントロールして立ち向かう力
 俯瞰力 <small>ぼくあんりき</small>	客観的に自分自身をとらえる力
 向上心 <small>こうじやうしん</small>	前向きにさらに高みを目指して努力する力
 受容・共感 <small>じやうよう きやうかん</small>	相手の状況や考えを思いやる力

Q1

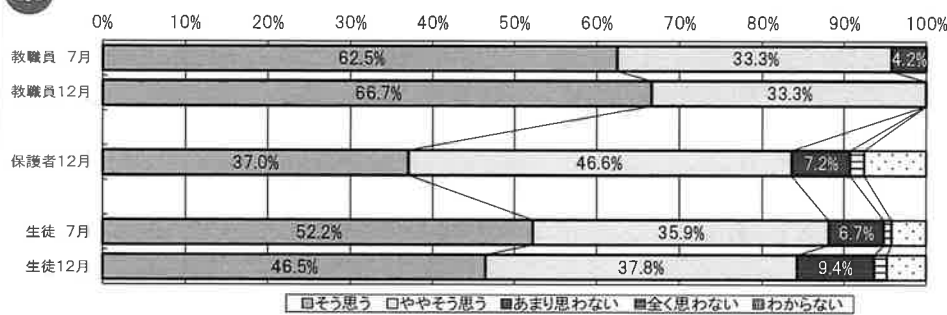
あなたは「豊城4マインド」を意識して学習したり生活したりしていますか。



生徒、教職員ともに豊城4マインドを「意識できている」と回答しており、校内での取り組みが浸透してきていることがわかります。一方で、保護者の皆様に、学校での取り組みが十分に伝わっていない面があると受け止めています。今後は、生徒の学習場面や学校生活での成長がより明確にお伝えできるよう、学校だよりや学年だより、ホームページ、授業公開など、情報発信をいっそう充実させていきます。(本欄上部に掲載しました)

Q9

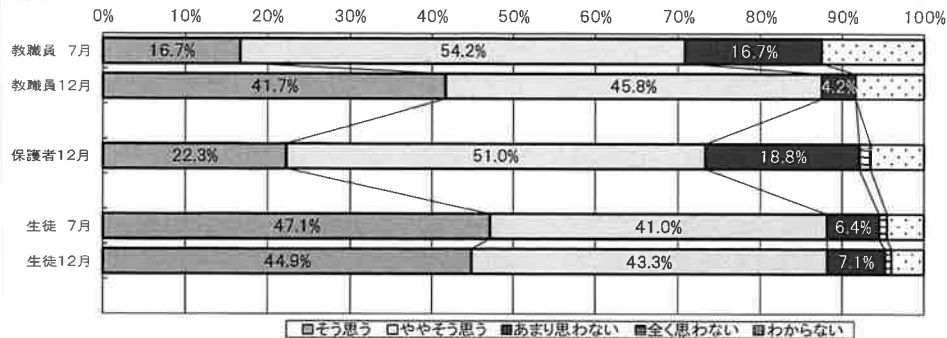
先生方は、親身になって話を聞いてくれたり、声をかけたりしてくれていますか。



生徒全員が安心・安全な生活を送るためには、教職員が意識的に『声なき声』に耳を傾け、そこに寄り添う感覚をもつ必要があります。「そう思う」「ややそう思う」の割合が多いことに安堵するのではなく、そうではない回答が1割以上あることに危機感をもって、生徒との日々を送っていきたいと思います。

Q11

あなたは、自分だけでなく他人の命を守るための判断力や行動力を身につけるために、避難訓練や安全・安心に関わる学校での活動を生かしていると思いますか。



1月の避難訓練は、とっさの場面でも自分で判断して落ち着いて避難行動がとれるようなケースを想定して行いました。今後は、保護者の皆様にも協力していただき、両小学校と連携した引き取り訓練等も実施したいと考えています。

〈アンケート結果について〉

本年度の学校評価について、アンケート結果をまとめ、ホームページに掲載いたしました。ぜひご覧ください。

学校ホームページ
二次元コード



学年だより

1年 無限大 みんなの個性で

「一人一人の個性や可能性は無限大。らしさ」が大切にされ、互いに認め合いながら輝く学年にしたい」そんな生徒たちの思いから、学年目標を「無限大(みんなの個性で)」に決めてスタートした一年生。当初は、不安や緊張が感じられる様子も見られました。しかし、日々の学校生活や行事を通して、それ

ぞれが自分の役割を見つけ、少しずつ力を発揮する姿が見られるようになりました。クラスや学年の結束を強めた合唱コンクール。歌うことが得意な生徒も苦手な生徒も互いに声をかけ合い、クラスとしてよりよい合唱を目指して主体的に取り組む姿が印象的でした。また、野外教育活動では、「一心同体」お前も仲間にならないう」をテーマに、仲間を気づかい、集団で課題を乗り越えようとする場面が多く見られました。

この一年間で、個が輝き、その個を互いに認める、認められる経験を重ねながら、温かい雰囲気、仲間への成長してきました。来年度も、皆さんが毎日元気に登校し、たくさん笑って過ごせるよう、心から願っています。

2年 行動力 自律人へ

人の心は見えないけれど、心づかいは目に見える。そんな言葉があるように、二年生では、思ったこと、考えたことを行動に移す力を高めてほしい。また、自分だけでなく、周りにもよい影響を及ぼすことのできる行動をとってほしい、そのような願いから今年度の学年目標を「行動力(自律人へ)」としました。

二年生となり、後輩もできた中で、少しずつ先輩らしさが出てきました。まだ自分本位の行動が目立つ前期でした。しかし、職場体験学習では、他者(社会)を意識して行動するこ

とにつながったと思います。アポ取りのための電話、事前訪問、そして三日間の体験。全てを一人で、社会で生きていくための自信がついたと思います。また、体験を通して、「周りの状況を見て、何をすべきかを考えて行動することが大切」と感じました。この経験から、学校生活の中でも、周りを意識した行動をとることのできる生徒が増えてきたと感じます。

いよいよ四月からは三年生。豊城中を背負って立つ集団となるよう、更に、一人一人の「行動力」を高めてほしいと思います。期待しています。



3年 BRAVE

四月からの新生活が笑顔で迎えられるように授業に取り組む姿。中学校生活最後の学校行事に全力で取り組む姿。卒業に向かって、日々の学校生活を大切に過ごしてきました。理想の自分を追い求めながらも、学級や学年での時間もかけがえのないものとしてきました。

体育祭では、結果を追い求めるだけでなく楽しむことも忘れずに、スタンドから熱い声援を遠くで競技する仲間たちに送っている姿が印象的でした。

修学旅行では、家族や友達との旅行ではできないような体験をしながら、仲間の新たなよさを発見したり、思い出をつくったりしました。

合唱コンクールでは、指揮者やパトリリーダーが中心となって各クラスの特徴をつかみ、自己満足の合唱ではなく、曲を通して伝えたいことや訴えたいことが明確になるように工夫を凝らし、三クラス三様のすばらしい歌声を公会堂に響かせました。その熱量は、卒業式で歌う歌の選曲でも冷めやらぬものでした。プレゼンテーションをした三曲から一曲に決めようとしたところ、僅差であったため、泣く泣く決選投票に。その決選投票も僅差で「さくら」に決まりました。



「卒業を迎えられるのは、仲間や先生、家族の支えがあったから」

「誰かの一言に救われたり、クラスの雰囲気、安心したり、ささいなことでも笑顔になったり... 私たちは支え合いながら前に進んできました」

「門出の不安を仲間への感謝と絆でやわらげ、未来への希望をもって力強く進みたい」

学年目標のように、卒業後の歩みを、今、力強く踏み出そうとしていく皆さんの前途が明るいものであります。切に願っています。応援しています！

春風や闘志いだきて丘に立つ

(高浜虚子)